

クラシック音楽で紡ぐ 沖縄民話絵本のうちなーぐち読み聞かせ

～沖縄民話や昔話を、うちなーぐちの語り、絵本、生のオーケストラの音楽で、
総合的に表現する新たな教育鑑賞プログラム～

特定非営利活動法人 琉球交響楽団

浦添市牧港 3-40-6 浦添市中央公民館分館

TEL: 090-9783-7645 FAX: 098-988-3927

E-mail: ryukyu.sym@gmail.com

開発のコンセプト



1. 教育鑑賞プログラム開発の背景

- (1) 学校現場からの要望
- (2) うちなーぐち普及の取り組みとの連動
- (3) クラシック音楽の普及啓発

2. プログラム概要

沖縄民話や昔話をうちなーぐちの語り、絵本、オーケストラ音楽で総合的に表現する新たな教育鑑賞プログラム

物語1.「桃太郎」

物語2.「経塚の碑文とチョーチカ、チョーチカ」

3. プログラムの目的及び効果

- (1) 沖縄の伝統文化、うちなーぐちの継承、芸術性の優れた音楽文化に対する興味、関心の喚起。
- (2) 語り、絵本、生のオーケストラ演奏が一体となった県内初の鑑賞プログラムによる鑑賞力、想像力、共感力、感性の高揚。

4. 推進体制

- (1) プログラム開発に係る費用は、「おきぎんふるさと振興基金」の助成金を活用。
- (2) 開発は、浦添市文化協会、学校及び琉球交響楽団との共同開発。
- (3) 公演は、浦添市内小中学校及び社会教育施設等で行う。

5. 今後の展開

- (1) 県内各地の民話や昔話などを題材に、公演地域を広げていく。
- (2) 語りや演奏などに生徒、市民等が参加することにより、各地域の自主企画、自主公演等の取り組みへの発展を促進。
- (3) 琉球交響楽団が行う学校公演等で実演していく。

6. 初演の実施主体及び費用の確保

- (1) 主催は琉球交響楽団とし、浦添市文化協会、浦添小学校、仲間自治会、安波茶自治会、茶山自治会、浦添ニュータウン自治会、浦添ハイツ自治会の共催とする。また、沖縄県及び浦添市教育委員会の後援協力を得る。
- (2) 公演費用は、参加者一人当たり500円の協力金のほか、浦添市商工会及び民間企業等からの協賛金協力を得る。
- (3) 開催は、3月上旬とし、会場は、浦添小学校体育館とする。
参加予定人数は800名とする。

「クラシック音楽で紡ぐ沖縄民話絵本の読み聞かせ」教育プログラム開発
NPO法人琉球交響楽団全体管理・プロデュース

プログラム委員会

玉城弘(浦添市文化協会) 銘苅健(浦添小学校 校長) 宜保朝子(絵画) 琉響プロジェクト委員

琉球交響楽団

- 音楽監修、作曲、編曲、演奏
- シナリオ作成

浦添市文化協会

- 沖縄民話の選定
- うちなーぐちの監修
- シナリオ作成

学校現場

- 教育機関としての民話選定アドバイス
- シナリオ作成

沖縄県・
沖縄県教育委員会

- 取り組みの支援・協力
- 周知



浦添市内学校(小・中・高校)などでモデル公演

- 沖縄民話、昔話のうちなーぐち語り
- 絵本によるビジュアル表現
- オーケストラ音楽の生演奏

沖縄伝統文化、音楽芸術文化に対する興味、関心を喚起し、感性を磨く

- うちなーぐちの継承
- 沖縄の伝統文化の継承
- 芸術性の優れた音楽文化創造

制作: 取り組みのイメージ(全国での取り組み)



久我の杜小学校(京都)



北浦和小学校(埼玉県)

(プログラムの要素)

- オーケストラの生演奏
- 沖縄の民話
- うちなーぐちの語り
- 映像



まつえ 寺マルシェ @順光寺(島根県)



「志」エッセイフェスティバル(鹿児島)



こどものためのクラシック
(プーランクとぞうのババール)

《H27年度数値目標※プログラム制作年度》

- 浦添市内小・中・高校学校他にてテスト公演を実施(2～3校を予定)

《H28年度数値目標※プログラム制作翌年度》

【県内学校】

- 学校公演回数:6回(6校)
- 参加生徒数:2,000～3,000人

【読み聞かせイベント】

- 2回(県内イベントスペース他で開催)

【連携】

- 県内のウチナーグチを普及している団体との連携、ネットワークの構築



プログラム委員プロフィール

琉球交響楽団 プロフィール

2000年春に琉球交響楽団設立準備委員会が発足し、2001年3月30日沖縄コンベンションセンターにて「琉球交響楽団設立コンサート」を開催。楽団のメンバーは沖縄県立芸術大学の卒業生を中心に地元沖縄で活躍している演奏家。ミュージックアドバイザーに国際的指揮者の大友直人氏を迎える。2006年には「特定非営利活動法人 沖縄音楽文化交流機構」が支援母体となり、演奏活動を行っている。

主な活動としては、「世界のウチナーンチュ大会」「復帰記念式典」「米州開発銀行(IDB)総会」などの国、県、市町村主催の公的事業等での演奏を始め、ベトナム公演、年2回の定期演奏会開催、約60か所の学校公演を実施し、文化交流の推進及び人材育成に取り組んでいる。

その他、県内企業のCMにも出演し好評を得ている。聴衆とのふれあいを大切に、県民に親しみ愛される楽団を目指すと共に、沖縄独自の伝統芸能実演家との協働を図り、新しい創作活動を積極的に行っている。

これまでの主な活動

- 2001年 第3回、第4回、第5回
世界のウチナーンチュ大会にて演奏
- 2002年 沖縄本土復帰30周年演奏(政府主催)
- 2004年 ベトナム公演
- 2005年 第46回米州開発銀行(IDB)総会
皇太子殿下ご臨席のオープニング演奏
- 2012年 復帰40周年記念 太平洋島サミット
- 2013年 沖縄県主催 Dynamic Asia Symphony
- 2013年 2014年
沖縄県主催 県民クラシックコンサート



玉城 弘 プロフィール

浦添市を拠点とし、沖縄語(うちなあーぐち)講師として活動。沖縄語の普及、継承に努めている。これまでの主な活動としては浦添市 語やびらしまくとうば大会を開催し、「浦添口説」の復元に尽力。また、ゆいレール改札口での沖縄語アナウンスなども担当し、全15駅で軽妙な沖縄語を聞かせている。沖縄語(うちなあーぐち)学習支援団体 語やびら現在、沖縄語ぬ会長、浦添市文化協会沖縄語部会長を務める。

2008年9月 琉球新報記事

「浦添口説」を復元、披露 市しまくうば大会



浦添市 語やびらしまくとうば大会(主催・語やびら沖縄語ぬ会)が7日、浦添市立中央公民館で開かれ、お年寄りから小学生まで、沖縄の心をそれぞれ軽妙な語り口で披露した。浦添の地名を読み込んだ「浦添口説(くどうち)」も演じられ、約100人の聴衆が聞き入っていた。

「浦添口説」は大正から昭和初期に、当時浦添尋常高等小学校校長だった玉城寛敏氏が作ったとされ、歌詞の不明な部分を語やびら会の玉城弘会長らが聞き取りなどで復元した。今回は歌三線に合わせて披露された。

歌詞は尋常高等小校区の仲間、安波茶、伊祖などの地名を読み込み、村々の繁栄を願っている。また「清らさしぢたる馬場ぬ松 緑さしている御茶の山(見事なまでの安波茶村の馬場の松並み 緑がさし出るお茶の山)」など、それぞれの土地の素晴らしさを歌っている。

大会では歌三線や踊りを合わせた「万国津梁ぬ鐘ぬ歌(かじゃでい風節)」「語やびらしまくとうばぬ歌(辺野喜節)」なども演じられ、しまくとうば教室を開いている沢岷小学校の児童らがウチナーグチでの自己紹介や「ベェーベェーぬ草」などのわらべ歌を歌った。

プログラム委員プロフィール

宜保朝子 プロフィール

1973年 沖縄県浦添市生まれ
1993年 武蔵野美術学園入学
1996年 同学園、油絵科卒業
1996年 同学園、油絵研究科入学
1999年 同学園、油絵研究科卒業
1999年 秋頃、沖縄に拠点を移す
2009年～現在 浦添市在住

1996年 武蔵野美術学園 三雲祥之助(創立者)賞 受賞
1998年 関口芸術基金賞展(第9回)入選
1999年 現代日本美術賞展(第28回) 東京都現代美術館賞
受賞
1999年 関口芸術基金賞展(第10回)2作品入選
1999年 りゅうせき美術賞展(第10回)入選
2000年 関口芸術基金賞展(第11回)入選
2000年 現代日本美術賞展(第29回)入選
2008年 沖縄アートフェスティバル 日比野克彦賞 受賞

2009年6月 ホテル日航アリビラ15周年記念絵本『イソヒヨドリの
ウタ』



イソヒヨドリのウタ

(絵・宜保朝子／ホテル日航アリビラ)〈絵本〉
※南の島の浜辺を舞台に、絵の好きな少年
とある小鳥の友情を綴った絵本。
ホテルの15周年を記念して制作。2009年6月
発売
《第28回 沖縄広告賞 金賞受賞!》

銘苅 健 プロフィール

那覇地方法務局、浦添市役所、国立劇場おきなわ運営財団な
どを経て平成26年4月より浦添市立浦添小学校校長。昨年まで、
浦添教育委員会指導部長を務める。

仕事の傍ら、沖縄伝統文化である言葉、うちなーぐちの普及、
継承に力を注ぎ、うちなーぐちの語りによる絵本の読み聞かせ
や、児童劇のために昔話「桃太郎」をうちなーぐちに翻訳するな
ど、活動を行っている。日本レクリエーション協会インストラク
ター、文部省:教職員初任研修洋上研修「学校レクリエーショ
ン」講師なども務める。

2013/02/07 仲西小学校での取り組み



うちなーぐちを楽しむ会が行われました。

オープニングで、「きじむなー」の曲にのって踊りながら舞台上か
ら登場してきた浦添市教育委員会の銘苅 健指導部長に子ども達
は大盛り上がり。銘苅部長は、毎日の家庭学習の大切さを子ども
達にもわかりやすく方言を交えながらお話していただきました。
キーワードは、「じんぶなー」。その後、各学年から沖縄の歌やクイ
ズなどの出し物が披露され、「うちなーぐち」にたっぷり浸る時間
を持つことができました。(仲西小学校HPより)

15 琉球 2005年(平成17年)3月10日 木曜日

芸能・音楽

琉球交響楽団

フルオケ初の沖縄音楽CD 名曲を楽しくアレンジ

琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した沖縄音楽の名曲を、CDに収録した。これは、琉球交響楽団が、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。



琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。

長包メロディー 新たな輝き

琉球交響楽団

琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。



琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。

亡き師にささぐ音色

琉球交響楽団

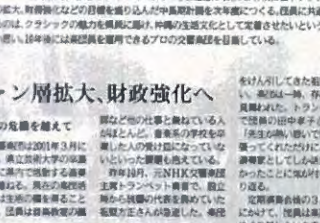


琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。

琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。

10年後のプロ化目指す ◆琉球交響楽団

琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。



琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。

琉球が陶酔の旋律

琉球交響楽団

琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。



琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。

勇壮 優雅

琉球交響楽団創立10周年

伝統芸能と共演も

中村透の3部作初演

琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。



琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。このCDは、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した初めてのCDである。収録されているのは、琉球音楽の名曲で、琉球交響楽団のメンバーが、フルオケで演奏した。

「エル・システム」那覇で勉強会

新垣

伊津子

ウィオラ奏者

「クラシック音楽は数層が高くて」行ったことないし、「面白くなさそう」われわれ演奏者が聞く耳が痛い声が聞こえてきそうですが、声を大にして言いたい：そんなことは決してありませんよ。行ったことない方は

一層ぜひ、音楽会に足を運んで、生でしか聞けない楽しさを味わってみたいと思います。まずは迫力を味わえる「オーケストラはどうでしょうか。例えるならば、オーケストラは指揮者というシェフが、多彩な楽器（食材）を使って美味しフルコースに仕上げるという音楽です。

琉球新報 2015年2月3日

ほとどの奏者が舞台上で音を奏でていきます。管楽器、打楽器、弦楽器、いろいろな楽器（食材）が多彩な音を作り出します。やさしい音、透明感のある音、重厚感のある音、温かい音、悲しげな音色など。ホールに響き渡る大迫力の音でも耳が疲れないのは、生の音だ

南風

クラシックコンサートへの誘い

から。演奏者は全身全霊をかけて、その曲に向き合っている。一音一音、音を紡ぎだしています。それはデジタル化された音楽からは決して味わうことのできない温かい音のシャワーです。

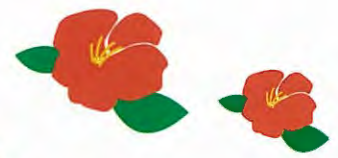
プログラムにある作曲家の意図を読んで調理するのは、シェフである指揮者です。シェフの腕により、味付けされ、また音楽はよりいっそう美味しくなるのです。そして、最後にスベシャルなフルコースに欠かすことのできないのは観客です。同じ時間、空間を共有すること、また、まなざしや拍手が私たちのエネルギーとなりま。音楽とは「音」を「楽しむ」こと。肩の力を抜いてクラシック音楽を聴いてみてはどうでしょう。寝てしまっても大丈夫（いびきは困りますが笑）。

最後にもう一度、クラシックコンサートに足を運んでみませんか？ 終わつた後にきつと温かき心地よい幸福感を味わえるでしょう。

観衆から送られる拍手の中、演奏家が互いの演奏をたたえるように握手を交ね、演奏会を締めくくった。



琉球交響楽団 オーケストラで紡ぐ



沖縄民話絵本の読み聞かせコンサート

プログラム

♪ 芭蕉布

♪ 安里屋ユンタ

～オーケストラで紡ぐ沖縄民話絵本のうちなーぐち読み聞かせ～

♪ 桃太郎

♪ 経塚の碑文とチョーチカチョーチカ



【出演】

うちなーぐち 語り：銘苅 健（浦添小学校 校長）

チル－：當眞 萌々花（内間小5年）カミー小：玉城 遙来（宮城小5年）家来：我喜屋 ひかる（浦添小6年）

演奏：琉球交響楽団室内オーケストラ

うちなーぐちシナリオ制作：玉城 弘「経塚の碑文とチョーチカチョーチカ」/ 銘苅 健「桃太郎」

絵画：宜保 朝子

音楽監修・作曲・編曲：潮平 大作

資料提供：玉城 弘「経塚の碑文 チョーチカチョーチカ」/ 中川信子原作「沖縄桃太郎」

沖縄文化社「沖縄の由来ばなし」より「チョーチカ（経塚）」

日時 2016年3月6日（日）16：00～17：00

場所 浦添小学校 体育館 （開場 15：00）

入場料 500円（3歳以上～大人）〔限定700名〕

*小さなお子様連れのお客様は他のお客様にご配慮をお願いいたします

*床の固さが気になる方はクッション等ご持参下さい

*前売り・予約で定員数に達した場合は当日券の販売はございません

主催：特定非営利活動法人 琉球交響楽団

共催：浦添市文化協会、浦添小学校、仲間自治会、安波茶自治会、茶山自治会、

浦添ニュータウン自治会、浦添ハイツ自治会

後援：沖縄県、沖縄県教育委員会、浦添市、浦添市教育委員会

【チケットのご予約】

琉球交響楽団事務局

Tel:090-9783-7645

Fax:098-988-3927

ryukyu.sym@gmail.com

もしくは

共催の団体・各自治会で

もご予約できます



切り取り線

チケットお申込み

切り取り線

*共催の団体・自治会へのお申し込みは切り取って所定の場所にご提出下さい。事務局へファックスでお申し込みの場合は切り取らずにご使用下さい。

お名前：

枚数：

枚

連絡先：